

宿泊したホテルは中心部から離れた所にある。五区のトランピントロン通りに面した EQUATORIAL HOTEL であった。時間の有る時に周辺を散策してみた。開発が進んできているがまだ下町住宅街の雰囲気が残っている。



左の二枚の写真はホテルの玄関から向かい側を撮ったものである。

新しい建物を所々で見かけるが一階が商店になっていて、二階から上が住居になっている。面白いのは二つの違ったビルの上に隙間がないことだ。このような建方をしている所は他にも多い。ガイドに聞くと、隣と離す必要がなく。後から建てる時は隣の壁にレンガを積んでモルタルで仕上げるだけであるということだ。

家族が増えると上に部屋を積みましていくようだ。ホテルの窓から見ると、周囲で屋上にさらに同じ形状で積み上げていく工事現場がある。地震や災害の少ない場所である。隙間を空けて両方の外壁工事をするとなると、結構の幅が必要だし、そうすると両方の間口が狭くなる。こういうやり方も狭い敷地のここでは良い方法かもしれない。



左の写真は近くのロータリーだが、見ての通り、縦長の建物がくっついていて隙間がない。所々にある路地や細い道を伺うと奥の方に古くて小さい住宅がひしめきあっていた。

通常の庶民はこういう場所に住んでいるのだろう。人の出入りがはっきりなしだ。



右の写真はホテル近くの路地である。大きな通りから入る



と高い建物は見当たらない。これは朝の風景だが若者が乗ったバイクが出たり入ったりしている。その路地からバイクに木炭をいっぱい積んだ若者が出てきた。どうやらまだ路地裏の住宅では炊事に木炭を使っている様だ。

奥にかなり続いているが、そこまで入っていく雰囲気はない。入り口付近でとどめておいた。

大きな通りから一本わき道に入るだけで、昔の街並みがまだ残っている。地元相手の商店や屋台が並んでいてにぎやかだ。



下町歩きの中で目に付いたものを紹介する。



上左はベトナム名物料理「ホー」の食堂である。朝の炊事をしないで、外食ですます人達が多い。家族ずれや出勤前の人達で朝は賑わっている。上右は雑貨屋。ジュースや飲料水、スナック菓子等。それに日用品が売られていた。前にあるオレンジの箱はごみ収集車である。

左が開発で大きな集合住宅が建っているすぐ裏にあった店である。くずれてしまいそうな古い建物だが、まだ現役である。左が雑貨売り場で右が食堂として使われているし、客も入っている。

なんとなく植民地時代のなごりの様な気がして、シャッターを押した。

ホーチミン市では今盛んに再開発が行われている。泊まったホテルの近辺でもホテルやビルの建設現場が複数あった。おそらくはこの数年で街も様変わりするのかもしれない。一区の観光客が来る場所はかなりきれいに整備されてきている。そのうちにこの辺も集合住宅が林立することになるだろう。